

# 日立會報

第23号  
平成28年 2月29日  
発行 日立工業高校同窓会  
発行所 同窓会事務局  
日立市城南町2-12-1  
☎ 0294 (22) 1049  
FAX 0294 (21) 4591  
印刷所 SATOプリント  
☎ 0294 (33) 0883

## 会長挨拶

同窓会会長 長谷川 宏



同窓会「昱工会」の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より母校の発展に對しまして、深いご理解とご支援を賜り有難く厚く御礼を申し上げます。現在の「昱工会」の会員数は、平成二十七年卒業生二百六名を含め一万三千六百三十三名となり、同窓生の皆さんが県内を始め国内外で政治、経済、科学、教育などあらゆる分野で幅広く活躍されていることは誇らしい限りです。

さて皆様もご存じのように我々を取り巻く環境は目まぐるしいスピードで変化しています。私が生業としている建設業界でもスピードの変化を表現する言葉に「ドックイヤー」という言葉を聞きます。成長の度合いを人間の1年は犬の6〜7年に相当するといわれていますが、国内外はまさに「ドックイヤー」のようなスピードで変化しています。以前の会報にはその年の大きな出来事を話題にいたしました。しかしながら、重要だと思われる出来事がこのところ短時間で事が決まったりと、どうも時間の進み方が以前とは違っているようです。思い起こせば二〇〇九年の衆議院総選挙から鳩山民主党政権が発足したのはわずか六年前、それから三年後の二〇一二年で幕が下り「アベノミクス」「三本の矢」の経済成長戦略を始めとする第二次安倍内閣経済政策が打ち出されたのは二年半前。この時からデフレ脱却から好循環への道筋をたてこれまでの様々な問題を一

気に解決しようとした。まさに「ドックイヤー」の時間帯でした。余談になりますが本川達雄氏の著書「ゾウの時間・ネズミの時間」では動物のサイズによって寿命が違うことは、動物ごとに「時間」が違い、動物ごとに時間をはかる「時計」も違うようです。身体の大い動物は心周期も呼吸も筋肉もゆっくりとした時間になってネズミはチヨロチヨロ、ゾウはのっしのっしという動きになるわけです。

日本全体に突きつけられた人口減少問題はものづくり復活という新聞報道もある中、メイド・イン・ジャパン復権には、資源の少ない我が国が先進国の仲間入りを果たしたのは技術力であり、工業高校を卒業した技術者が原動力となっております。言い換えれば母校の卒業生のような「担い手」の育成と確保が産業界に突きつけられた大命題であります。ドックイヤーどころではなく「ネズミの時間」で対応しなくては社会全体の脆弱

化に拍車がかかってしまいます。元気で豊かな地方の創生といわれる中、地域産業を支える工業高校生への期待は高まっております。後輩諸君には、どんな変化にも対応できる柔軟性と基礎力を身につけ、社会で活躍の場に立ってほしいと思っております。中長期的に全体最適化を図り広く判断するゾウの時間と行動はネズミの時間で対応することが求められているようです。今後は長期的思考と実行のスピードを上げるための二つの時計がもてるかにかかっています。昨年度は多くの同窓生が活躍しておられる日立製作所の火力部門が三菱重工との統合があり、今年度は日立パワーソリューションズの再編と、身近に変化のスピードを感じる一年でした。

母校の様子というと、今年度は来春の卒業予定者の就職率一〇〇%が早い時期に達成されました。生徒諸君の努力は勿論でありますが、先輩諸君や先生方のご尽力の賜でもあります。

日立グループ溶接・製缶技能競技会において、卒業生の沼田恭伸君が(株)日立製作所社長技能賞に輝き、後輩諸君にチャレンジ精神の大切さを託していただきました。また、陸上部の関東高等学校及び関東陸上選手権(山梨県甲府市・関東駅伝競走大会(千葉県旭市)出場。日本ユース選手権大会(愛知県名古屋市)において400

大会(群馬県前橋市)に選出され、400mハードル第三位。サッカー部の県選手権大会出場(二回戦)関東茨城県大会出場を果たしました。また自動車部が茨城県省エネカー燃費競技大会で優勝をし、見事三連覇を成し遂げました。

我々同窓生にとって母校のさらなる発展と活躍は何時も勇気づけられ、励みになるものです。また長い間職域支部でご活躍されていた同窓生の皆様も職域支部を離れていく様子を窺い知る機会が多くなりました。今後の同窓会の各地域支部や職域支部のあり方に一考を要するものであります。より一層のご努力により魅力ある活動を継続して、さらに広めていく必要があります。

平成二十七年六月六日に記念基金管理運営委員会及び幹事会、六月二十日に同窓会総会が開かれ、同窓会各事業報告などの報告がなされました。この間にも役員会などを開き、意見の調整などに当たっていただきました。御多忙な中、誠に有り難うございました。最後になりますが、同窓会会員の皆様にはこれからもご協力ご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝を御祈念申し上げます。